

# しまつくり号 ①

## コンセプト

「海岸が危ない」 この一言にわたしたちは立ち上がりました。

清水の代表的海岸である三保の浜が年々消えつつあるというのは、ここ数年急速に浮上して来た問題でした。さらに全国的に有名な羽衣伝説の残る三保の松原まで、浜とともに消えようとしているのです。わたしたちは最初に、美観を兼ね備えた方法で三保の浜を取り戻そうと考えました。

しかし交通等の関係上、どうしても自然の浜とその景観を犠牲にせざるを得ない由比のような現状もあることが、調査から分かって来たのです。由比という場所は海と山の間が狭く、山を削ってつくったバイパスや、海の上に柱を立ててつくった東名高速道路のためにテトラポットが必要不可欠なのです。そして海岸。さらには道路まで地盤沈下の危険にある久能の海岸という問題も清水にはあります。そのような現状の中で三つの違った、三保、由比、久能という浜を例にとり、いろいろな場所に広く対応することができ、しかも美しい海岸とそのために必要な周辺器具をデザインしました。

## 現状



由比 幹線と山を削り、従来の交通の不便を解消



久能の海岸線 干潟の砂が減少し、海岸線が侵食されている。

三保の海岸 干潟の砂が減少し、海岸線が侵食されている。

# しまつくり島 ②

## 海岸の侵食

砂の流出・国土開発

砂利採取による土砂の流入欠如

地盤沈下

波による海岸侵食

ダムの存在

水力発電

テトラポットで波消し

ダムとは別のため池があるが

美観の問題

水量調節と砂防



必要不可欠

養浜を進める

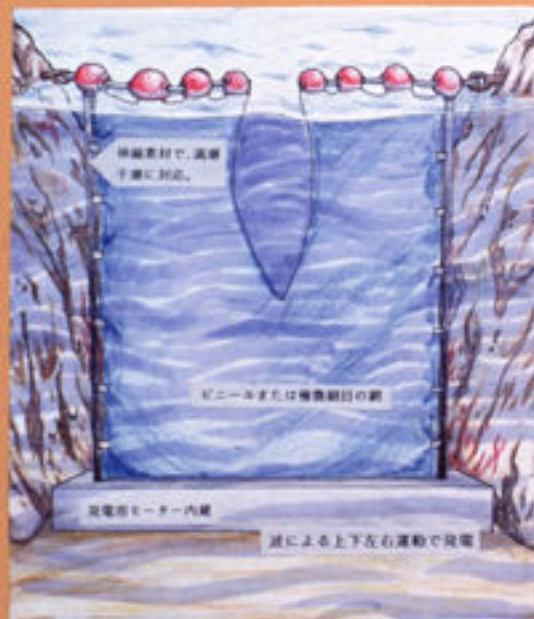
自然のダム見直し

従来のテトラポットより風情的なものをデザイン。環境との調和を図る。  
 ※ テトラポットのデザインは、浜へ流しこめるコンクリートブロック全てを用いている。本来は、「テトラポット」は商標名で特定の形のものを用いるが、分かりやすくイメージしてもらったために用いた。  
 以下からは「異形ブロック」と表記する。

①砂を自由に運ぶ自然の河に似せ養浜する。  
 ②雑林で自然ダム強化。  
 ③花野原の緑化と景観の改善。



# しまつくり号 ③



## ●発電型可動式消波工

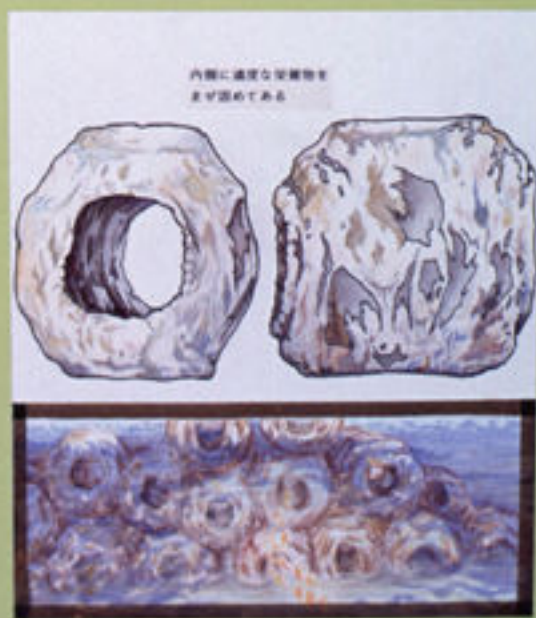
今までの常識を破る画期的な消波工。動くことにより波をはらみ、波の勢いを消す“のれんに腕押し”方式を採用。発電もでき、まさに一石二鳥。材質はどこにもあるありふれたビニールシートに、コンクリートの固まりを組み合わせるだけでOK！経済性も抜群。しかも波の下にあるので、景観を損なうこともない。今までのテトラポットの問題点をAll clear した新鮮な発想の逸品です。

## ●岩型ブロック “岩屋くん”

岩感—もとい違和感のない岩型の、魚礁用消波ブロック。

形は球形に近く、漁をするための網が引っ掛かることもありません。真ん中にある穴の壁には、赤潮が発生しない程度の、適度な栄養分が含有されています。そのため、魚がすむのには最適の環境です。

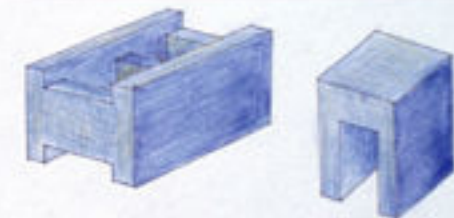
自然な形は、景観を損なうことなく波消の役目を果たすでしょう。



# しまつくり島 ④

## ●多目的安全ブロック

一見シンプルに見えますが、単独でしっかりと足場を固め組み合わせ部分では鍵にもなるタイプCと、ラーメン構造のタイプHを組み合わせることによって、従来のテトラポットよりも固定力に優れた設計になっています。きれいに積み重ねられ、海岸の風景をすっきりとしたものにするでしょう。CとHを組み合わせたくぼみは、浜ではちょっとした水遊びの場になります。細いすきまをつくらないので足を扶む心配もなく、とっても安全です。その上製造工程において型数も少なく、経費削減にもつながります。



上左図	H型	300×200×200(mm)
上右図	C型	125×100×140

下左図	H型の真上図	
	ラーメン構造で強化	



## ●サンゴ型ブロック

海と言えばサンゴ。

サンゴは海中で波消に役立っている事を知り普通の海岸にも応用すべく、異形ブロックをサンゴ型にしてみました。

波消の役割はもちろん、独特の美しさが自然とマッチして美観にも役立ち、テトラポット特有の違和感もありません。

適度なすきまも魚のすみかに最適。海岸を豊かな漁場にします。